

1 目指す言語能力

古典に表れたものの見方や考え方に触れ、自分の考えを広げる

【 指導事項 読むこと 】

エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。

【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

ア（イ） 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

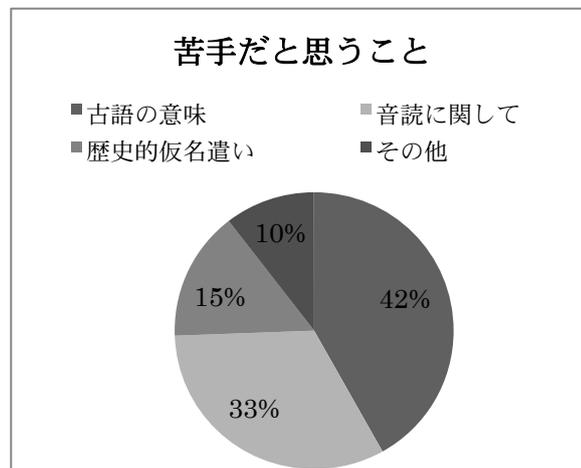
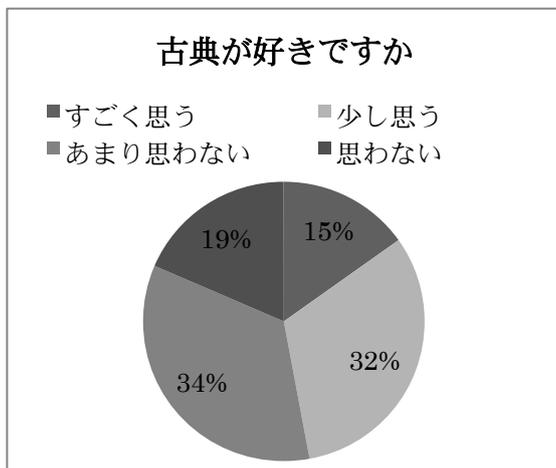
【 言語活動例 】

ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。

2 単元名

古典に親しむ （ 教材 「枕草子」序段 春はあけぼの 清少納言 ） （光村図書出版2年）

3 生徒の実態



表A 古典学習に対するアンケートより

表B 古典が苦手な理由について

生徒は小学校からの学習において、和歌などの韻文や狂言などの芸能が古来よりあることについてはある程度の知識がある。しかし、それらは「昔のこと」としての知識に留まっており作品について「親しむ」というところまでは感じられない。平成22年6月、第2学年の生徒157名を対象に「古典学習に対するアンケート」を行ったところ、調査の結果53%の生徒が古典の学習に対して苦手意識をもっていることが分かった（表A）。また、アンケートにおいて「古典の学習が好きですか」の問いに対して「少し思う」「思わない」と回答した生徒が古典学習を苦手な理由についてどのような点において苦手意識をもっているかを表したものが表Bである。主な理由としては「あまり馴染みがない」「すらすらと文章を読むことができない」「文章中の言葉の意味がわからない」といったものが挙げられた。反対に古典の学習に好意的な意見をもっている生徒の回答としては「面白い」「昔の人の考えを知ることができる」「日本の古くからの文化に興味がある」「百人一首や昔話などで興味をもった」という意見が挙げられた。また、アンケートの質問において、「古典でどのような学習をしたいですか」という設問には、「すらすら読めるようになりたい」「暗唱したい」「歴史的仮名遣いを覚えたい」「古語の意味を知り、使ってみたい」という意見が見られた。アンケートからは、苦手意識をもっている生徒は半数以上と大分だが、興味関心が全くない生徒は少なく、「理解したい」「古典を身近なものとして親しみたい」という気持ちをもっていることが分かった。

苦手意識をもつ生徒の回答にある「古語の意味がわからない」「歴史的仮名遣いが読めない」といった点はいずれも今単元を中心となる活動である。「意味解釈」や「歴史的仮名遣い」について今単元はもちろん、古典学習において欠かせない活動である。古典の学習活動を考える上で、苦手意識をもったまま進んでいってしまう

ことも考えられる。中学での学習が古典に親しむ態度を育む入り口となるよう苦手意識を無くしていけるような単元構想を図っていきたい。

#### 4 単元について

##### (1) 単元設定の理由

本単元では、第2学年の古典学習の導入として「枕草子」序段が取り上げられている。「枕草子」では清少納言の自然と人間に対する鋭い観察を通して、古代女性の感受性や唯美性が示される内容となっている。序段に書かれている「春はあけぼの」は作者の四季に対する鋭い感性が表れている。日本特有の四季という普遍的な事柄については、現代を生きる私たちにとってもそう遠さを感じるものではなく、またそこに焦点を絞った清少納言についても、時代の違いこそ確かにあるものの、特殊性を感じることはない。

文章は四季それぞれについて一段ずつから構成されており、読みやすくわかりやすいものとなっている。それぞれの季節の出だしが体言止めで書かれており、読むものにとって余韻を残す書き方となっている。また、「月」と「やみ」、視覚と聴覚などの対比表現が多く使われ、その情景も想像しやすい。言葉の響きや調子を楽しみ、情景を思い浮かべながら音読をすることで古典の世界を味わわせることのできる作品である。また、暗唱にも挑戦させ何度も練習し文章を読みこんでいくことで、独特の音声のリズムはもちろん、日本の文化に親しませていきたい。

また、「春はあけぼの」の学習から自分なりの季節感を考え、文章に表現させることができるであろう。生徒同士が互いに作った文章を読みあうことで、清少納言の季節感のとらえ方と現代の季節感、また季節感のとらえ方を含めたさまざまな考え方に気づくことができ、古典に親しむことに加えて、自分のものの見方や考え方を深めることができると思う。

単元構想としては、「季節感について考える」(第一次)「原文音読・内容理解」(第二次)「創作・交流」(第三次)と設定した。第一次では「春はあけぼの」の現代語訳と資料として「深呼吸の必要」(長田弘・作 晶文社)の作品から季節感について考えさせる。ここでは季節感を考えることを通して、生徒に古典学習に対する関心・意欲を高めることを狙いたい。第二次において苦手意識の高い原文音読と内容理解に入るが、第一次での学習から生徒の意欲は高まるものであると考えた。第三次の活動から、音読と現代語訳が学習の中心となった際には気づかない作品の良さ、作者のものの見方や考え方を解説するよう取り上げ、それとの比較を生徒が表現することで味わえるであろう。自分の考えを文章に表す活動を効果的なものとするため第一次、第二次の活動を設定する。今単元の学習から、自分の生活と古典の世界のかかわりを考えることで時代の違いがあってもそこに変わるものと変わらないものがあることを意識し、より古典に親しむものとする。

##### (2) 言語活動を支える既習事項

今回の言語活動を支える言語能力としての既習事項は、以下のとおりである。

(新学習指導要領に即して 中学校1年生の指導事項から)

###### 【 書くこと 】

ア 日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること。

- ・ 目的に応じた材料を集めながら、自分の考えをまとめているか。

###### 【 読むこと 】

エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつこと。

- ・ 文章の構成や展開、表現の特徴について、その工夫や効果について自分の考えをもっているか。

オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くすること。

- ・ 文章に表れている書き手のものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くしているか。

###### 【 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 】

ア(ア) 文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読して、古典特有のリズムを味わいながら、古典の世界に触れること。

- ・ 文語のきまりを意識して、古典を読むことができるか。

## 5 指導内容と教材のかかわり

### (1) 本指導計画において意識させたい「言語意識」

#### 【 五つの言語意識 】

- ・ 目的意識 私の季節感について語り合うために。
- ・ 相手意識 学級の友人に向けて。
- ・ 方法意識 自分の考えを、古典の季節感との比較の中での文章を創作する活動を通して。
- ・ 場面状況意識 グループでの交流活動の場面で。
- ・ 評価意識 自分の作品を友人や清少納言のそれと比べ、季節感の違いを考え評価する。

### (2) 学びの意欲を高めるための手だて

#### ① 教科の学習内容どうしのかかわり

「かかわり」という観点から課題設定を仕組むことは、生徒が学習内容を考える際に焦点を絞って考えたり、他のものと関連付けて考えたりする上で有効であると考えられる。その際、生徒自身がどのような「読む力」が身についたのかを言語活動を通して明確にさせる。今回では作者のものの見方や考え方を通して自分自身の知識や体験と絡めてそこから自分の考えを形成するというものである。

また、「読むこと」でついた力は「書くこと」や「話すこと・聞くこと」にも有機的にかかわってくる。自分自身の考えをもち、広げ・深めたものを、人の同意を得られるよう伝える手立てを工夫する、というように一つの学習がそこだけに留まることなく、互いにかかわることも生徒に意識させ学習させていきたい。

#### ② 教材の持つ体系的なかかわり

新学習指導要領でも取り上げられている、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」において小学校での学習から古典学習が始まる。そして中学校一年生での「古典との出会い」の学習を通し古典特有のきまりやその種類を学ぶ。二年生の「古典に親しむ」で昔の人のものの見方や考え方にふれ、三年生の「古典を楽しむ」で昔の人の立場や思い・考えをとらえ、一層親しむ態度を育む学習へと体系的に発展していく。

#### ③ 教材と日常事象とのかかわり

古典作品の学習は、時代の隔絶から生じた言語抵抗の問題や、古い昔に書かれ内容が理解しづらいといった問題は伴う。その反面、言語文化の精華である古典には先人の知恵や心情・思想・美意識、現代とは異なる発想や新たな読みを可能にする多義性が含まれている。

本単元においても普遍的な価値を持つ日本の四季というテーマを、ただ共感的に読んで終わることなく、評価的な視点で吟味して自分の考えを深める言語活動を取り入れることで、作者の見方や考え方について学び・考え、そこから改めて言語活動を具体化することで、学習過程を見直すよう生徒に意識づけていきたい。

## 6 日常の取組

### 【 学習過程を意識させる 】

生徒に学習の流れを意識させることは、この学習の目標を意識させるだけでなく、授業に対しての構えを作らせることができる。また、このような学習を積み重ねることで、生徒自身が課題解決に向けての思考の流れを作ることができるのではないかと考える。

- ・ ワークシート … 学習の流れが見えるような工夫をする。
- ・ 「かかわり」(学習内容の関連性) … 1単元につき2つ程度の課題を提示し、  
を生かす課題 課題解決に向けての学習を進める
- ・ 交流 … 授業の中で小集団(3～5名)の交流する場面をできるだけもつようになっている。  
自分の考えを意識するようになると考える。

## 7 指導の目標

- 現代の季節感について、清少納言のそれとの比較から自らの考えを深めることができる。

8 指導計画

( 読むこと 4 / 48時間 )

次	時数	学習活動	評価規準
事前		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 新出漢字，新出音訓については事前学習</li> <li>・ 古典に関するアンケート</li> </ul>	
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習の目標を知り，5つの言語意識を確認する。</li> <li>○ 現代語訳と資料作品から現代の季節感について自分の考えをまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 清少納言のものの見方や考え方と現代の見方や考え方を比べ，自分の考えを書く。</li> <li>・ 現代語訳を参考にしながら，古文の意味を理解する。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清少納言のものの見方や考え方と自分の考えと比較したことを書いている。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート]</p>
第二次	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 枕草子や清少納言についてあらましを知る。</li> <li>○ 表現に注意しながら，原文を音読する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一文の長さ，対比表現，逆説的な表現，五感を生かしている点について気づく。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 作品に興味を持ち，意欲的に読もうとしている。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート] [ノート]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 清少納言の季節に対する感じ方やものの見方をおおまかにとらえている。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート] [ノート]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 古文の語句や仮名遣い，表現の特徴に注意しながら読んでいる。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート]</p>
第三次	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 現代の季節感を考えた「現代版 春はあけぼの」を創作する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「枕草子」序段をもとに，「現代版 春はあけぼの」を創作する。</li> <li>・ 「枕草子」序段で読み取った表現の特徴を意識しながら創作する。</li> </ul> </li> <li>○ 創作した作品を小集団・全体で交流し「枕草子」の時代と現代の季節感についての比較をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小集団・全体で交流した後，「枕草子」の時代と現代の季節感について共通する点や違う点を考える。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「枕草子」序段の形式をいかし，自分の季節感を表した作品を創作している。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ それぞれの作品を相互評価する交流を通し，「枕草子」の時代と現代の季節感について考えている。</li> </ul> <p>[教師観察] [ワークシート] [ノート]</p>

単元(教材)名		古典に親しむ 〈 4時間計画 〉			
言語活動例 指導事項		ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。			
		重点化	学 習 活 動	評 価 規 準	時
ア	抽象的な概念を表す語句や心情を表す語句などに注意して読むこと。 【語句の意味や理解】	<b>現代版「春はあけぼの」を作る</b>	「枕草子」序段の現代語訳と資料作品を読み現代の季節感について考える。		1
イ	文章全体と部分との関係、例示や描写の効果、登場人物の行動の意味などを考え、内容の理解に役立てること。 【文章の理解】		現代語訳を参考に「枕草子」序段の内容を理解する。		2
ウ	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめること。 【自分の考えの形成】		○ 「枕草子」序段の形式や構成をいかした、現代版「春はあけぼの」を創作する。	「枕草子」序段の形式や構成をいかした作品を創作している。	3
エ	文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えを持つこと。 【自分の考えの形成】		◎ 自分の創作した作品や他の生徒の作品から現代の季節感と「枕草子」の時代との比較をする。	現代と「枕草子」の時代の季節感を比較し、自分の考えを書いている。	4
オ	多様な方法で選んだ本や文章などから適切な情報を得て、自分の考えをまとめること。 【読書と情報活用】				省略
関連する〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕		ア(イ)	古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。	作者のものの見方や考え方を豊かに想像し、その表現を生かした作品を創作している。	

9 指導計画の流れ

【 事前学習 】

学習活動	
事前	○ 新出漢字 新出音訓 → 漢字練習ノートの利用 → 漢字確認テスト ○ 古典学習に関するアンケート

【 第一次 第1時 】

	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入	1 学習の目標と流れを知る。 ・ 「枕草子」序段を読むことを知る。 ・ 現代版「春はあけぼの」を創作し、季節感について考える学習であることを意識する。 【 目標 】 ○ 清少納言のものの見方や考え方に触れ、現代との比較の中で自分の考えを広める。		
深める	2 「枕草子」序段の現代語訳を読む。 ・ 難しい言葉や古語の意味などを理解する。  3 「深呼吸の必要」の作品を紹介し、現代における季節感について考える。 ・ 現代ではどのような所に季節の移り変わりを覚えることができるか。	・ 教科書の現代語を参考に「枕草子」序段の内容を確認させる。 ・ 挙げられている季節を表すこと（もの）を板書しながら考えを交流し合う。 ・ 小集団での交流を通して自分の考えを深める。 ・ 挙げた意見を板書しながら考えを交流し合う。	○ 考えをまとめようとしているか。 C 「行事」や「景色」などの考える上でポイントとなりそうな助言をする。
まとめ	4 次時の予告を聞く。	・ 「枕草子」序段の原文を読み音読練習、内容理解の学習をすることを伝える	

【 第二次 第1時 】

	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入	1 本時の課題を知る。 ・ 「枕草子」序段の原文を音読すること。 ・ 「枕草子」序段の書かれ方の特徴について理解すること。		
深める	2 「枕草子」序段の原文を読む。 ・ 教師範読を聞く。 ・ 音読練習を行う。 個人 → ペア → 小集団	・ 歴史的仮名遣いの読み方に注意する。 ・ 音読しながら情景を想像することを意識させる。 ・ 個人→ペア→4人グループで練習を行わせる。	○ 歴史的仮名遣いに注意しながら音読ができているか。

	<p>3 「枕草子」序段の表現の特徴について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品の書かれ方について，形式・内容から考える。</li> </ul> <p>4 全体で「枕草子」序段の表現の特徴について意見を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 書かれ方の特徴について気づいたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめは個人で考え，その後4人グループで表現の特徴について考えさせる。</li> </ul>	<p>○ 書かれ方の特徴を考えているか。</p>
まとめ	<p>5 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「枕草子」序段の形式をいかして，現代版「春はあけぼの」を創作することを伝える。</li> </ul>	

【 第三次 第1時 】

	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入	<p>1 「枕草子」序段の音読練習を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人での音読やペアでのリレー音読など読み方を変えながら練習する。</li> </ul> <p>2 本時の課題を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現代版「春はあけぼの」を創作することを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読み方に変化をつけながら，練習させる。</li> <li>・ 現代の季節感を用いて創作することを伝える。</li> </ul>	<p>○ 歴史的仮名遣いなどに注意しながら音読練習をしているか。</p>
深める	<p>3 現代版「春はあけぼの」を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時まで学習した「枕草子」序段の書かれ方を意識したものを創作する。</li> </ul> <p>一文の長さ 対比表現 逆説表現 五感を生かした表現 表現技法 文語</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節感を表す言葉を考える際に，自分の知識や体験と絡めて書くことを確認する</li> <li>・ 個人で考えさせる。</li> </ul>	<p>○ 「枕草子」序段の表現の特徴を意識した，現代の季節感を表す作品を創作しているか。</p> <p>C 現代の季節感を表す言葉を考えさせ，「枕草子」序段の季節と照らし合わせる。</p>
まとめ	<p>4 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時で創作した作品を交流して，現代と「枕草子」の時代を比較して考えることを伝える。</li> </ul>	

- (1) 日時 平成22年10月23日(土)  
 (2) 場所 山梨大学教育人間科学部附属中学校 2年1組教室  
 (3) 目標 自分の考え方を他の考え方と対比させ、考えを広める。(C-E)  
 (4) 展開

【 第三次 第2時 】

	学習活動及び内容	指導上の留意点	評価
導入	1 「枕草子」序段の音読練習を行う。 ・ 個人での音読やペアでのリレー音読など読み方を変えながら練習する。 2 学習の目標と流れを知る。 ・ 創作した作品を交流し、現代と「枕草子」の時代と比較をする。	・ 読み方に変化をつけながら、練習させる。	
深める	3 創作した作品を小集団で発表し合う。 ・ それぞれの季節感の特徴について意識しながら発表を聞く。  4 全体で交流する。 ・ 数名の生徒が全体に向けて発表する。  5 現代と当時の季節感について比較する。 ・ 時代の違いがある上で、共通する点や異なる点について考える。	・ 聞く側の生徒に、発表をした生徒の季節感の特徴を意識させる。  ・ 聞く側の生徒に、発表をした生徒の季節感の特徴を意識させる。  ・ 自分の作品や他の生徒の作品をもとに比較することを伝える。	○ 発表の中で、他の生徒の作品の特徴を意識して聞くことができているか。また積極的に意見交換できているか。 C 意見交換の中で他の生徒の意見を注意して聞くよう助言する。  ○ 現代との共通点について考えている。 C 自分の創作した作品や他の生徒の発表から考える。
まとめ	6 学習のまとめ	・ 学習を通して学んだことを書かせる。	